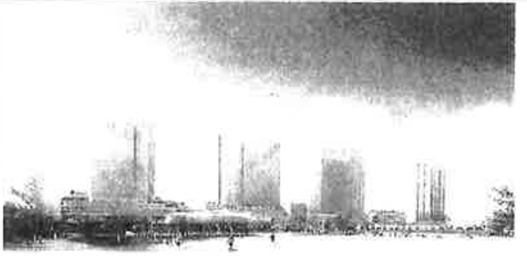
交通新聞
発行所 交通新聞社
東京都千代田区神田駿河台2-3-11 NBF御茶ノ水ビル8階
〒101-0062
電話東京(03)6831 6570編集局 6571FAX 6622販売部
定価1月 2314円（税・送込）
1部84円 振替00180-2-58112
©交通新聞社2020

TATSUTA
鉄道用電線 車両用電線
タツタ電線株式会社
http://www.tatsuta.co.jp/
タツタ 鉄道 検索

JR東日本の品川開発PJⅠ期

国交相、都市再生事業に認定

赤羽一嘉国土交通大臣は3日、都市再生特別措置法の規定に基づき、3月6日付でJR東日本から申請のあった民間都市再生事業計画（品川開発プロジェクト（第Ⅰ期））について認定した。3月14日に開業した山手・京浜東北線高輪ゲートウェイ駅前に、文化・ビジネスの育成・交流・発信機能や、外国人にも対応した居住・滞在機能など、国際競争力強化に資する都市機能を導入。併せて、災害発生時の帰宅困難者対策や防災対応力強化、環境負荷低減を図り、歩行者広場や交通広場を整備する。事業施行期間は3月12日～2025年3月31日までの予定。


開発区域のイメージ（JR東日本提供）

国際競争力や防災対応力強化

認定を受けた民間事業者は、同法に基づく金融支援、税制特例などの措置を受けられる。公表された計画内容によると、事業区域は東京都港区高輪2ノ80ノ6の一部など。高輪ゲートウェイ駅前に国際競争力強化に資する都市機能を導入するとともに、帰宅困難者対策や自立性の高いエネルギーシステムの導入による防災対応力強化、未利用エネルギーの有効利用や設備の高効率化などにより、環境負荷低減を図る。

さらに、合計で約2万平方㍍の歩行者広場や、デッキレベルの歩行者ネットワークの整備、鉄道や地域交通機能の結節する交通広場の整備などに取り組む。

事業区域の面積は約8万5634平方㍍で、区域内4街区に建築物4棟（合計延べ床面積約84万209平方㍍）を建設する。1街区の建築物は地上44階・地下2階建て（延べ床面積約14万7050平方㍍）で、共同住宅、学校、店舗（物販・飲食）、駐車場などが入る。

2街区は地上6階・地下3階建て（約2万9000平方㍍）で文化施設（ホール、展示室）、店舗など。3街区は地上31階・地下5階建て（約20万7325平方㍍）で事務所、店舗、地域冷暖房施設、駐車場など。4街区は地上30階・地下3階建て（約45万6834平方㍍）で事務所、店舗、ホテル、会議場、駐車場などが入る。

このほか、デッキや広場、交通機能結節点となる交通広場などを整備する。既に今年3月に3街区を着工済み。1、2、4街区についても順次着工し、25年3月末に全街区が竣工する予定。

交通評論

旅に見る月

堀　雅通

様々な観光列車が登場し、ローカル線を巡る旅が人気を集めている。旅の魅力は過程にあるが、その昔、街道を歩いて旅した時代は、途中に現れる絶景や土地の人々とのふれあいが旅の醍醐味となった（トラベルMOOKジパング倶楽部『鉄道で旅する美しき日本』交通新聞社）。ローカル線の旅には旅の原型がひそんでいる。そこには「月見」の旅もあった。

東洋大学創立者井上円了は、こよなく月を愛し、観月を趣味とした。円了は仏教哲学者として知られるが、「全国巡回講演」と称し、民衆教育のため全国を講演して回った。いずれの旅でも、折に触れ、月の印象・所感を記している。「夜に入れば新月天に懸かる。その形鎌のごとし」。上州では「渡橋して桃野村字月夜野に入る。地名すこぶる雅なり」と感じ入った。

円了は旅先での観月を愉しみとした。「時まさに中秋三五の月明に会し、図らずも飛州（飛騨）の観月をなす」。「秩父第一の勝地たる長瀞に至りて休泊す……たまたま中秋明月に会し臨時列車の往復ありて観月の客群発し楼上立錐の地を余さぬほどなり」。この日は（大正元年9月27日）、秩父鉄道（埼玉）では月見の臨時列車まで出していた。

古来、日本人は月見を好んだ。我々も仕事で疲れた帰り道、ふと見上げた空に月を見たとき、なにがしかの感慨を抱くこともあるだろう。「よろづのことは月見るにこそ慰むものなれ」（『徒然草』）。

「わが心なぐさめかねつさらしなやをばすて山に照る月を見て」（読人知らず）。観月の名所として知られる姨捨。篠ノ井線姨捨駅を通るとき、いつも車窓から月が見えないかと気になった。井上靖は、出張の折、姨捨に立ち寄っている。「私が実際に姨捨の土を自分で踏んだのはこの秋のことである。仕事で志賀高原に出掛けて行った帰りにふと姨捨という土地を訪ねて見る気になったのである」（井上靖『姨捨』新潮文庫）。

サマセット・モームに『月と六ペンス』という小説がある。主人公のチャールズ・ストリックランドはポール・ゴーギャンがモデル（といわれる）。題名に「月」とあるが内容とは関係ない。そもそも小説に月など出てこない。

株式仲買人の職と妻子を捨て、タヒチに向かったゴーギャン。「楽園」を求めての「旅」は、しかし、人生の「漂流」となった。孤独と病に苛まれ、自殺を図った。それでもタヒチに活路を見出そうとした。「人生は旅、とはよくいわれることである……いったい人生において、我々は何処へ行くのであるか。我々はそれを知らない」（三木清『人生論ノート』新潮文庫）。

死を決意したゴーギャンが（遺言として）一気呵成に描き上げた大作がある。『我々は何処から来たのか、我々は何者か、我々は何処へ行くのか』。ゴーギャンがタヒチでどのような月を見ていたのかわからない（あるいは見ていなかったかもしれない……）。

片や、京に身の置き所を失った光源氏は、須磨に退去、語り合う人とてなく、「月のいとはなやかにさし出でたるに今宵は十五夜なりけり」（『源氏物語』）と失意の月見をする。

都落ちとなった平氏も、福原（神戸）で月見をするが、ある者は京に戻り、荒れ果てた都に涙する。「ふるき都をきてみればあさぢが原とぞあれにける月の光はくまなくて秋風のみぞ身にはしむ」（『平家物語』）。旅に見る月は心を映す鏡であった。

（東洋大学大学院国際観光学研究科客員教授）

下りホーム新設着手へ

横須賀線武蔵小杉駅

JR横浜支社

JR東日本横浜支社は、横須賀線武蔵小杉駅の抜本的な混雑緩和対策として、現行の島式ホーム1面2線から下りホームを新設する2面2線化について、設計が進捗（しんちょく）し国の認可が得られたことから、今月に工事に着手する。新設後は下り利用者が新ホームに移ることで混雑緩和が期待される。

同支社ではこれまで、同駅と駅周辺の混雑緩和対策に取り組んできた。新下りホームは、既設ホームより50㍍ほど横浜寄りに設置。15両編成対応でホーム長311㍍、基本幅員約5㍍。エレベーター1基、エスカレーター2基、階段2カ所を設け、通路となるコンコース部分については拡張を行う。

既設ホームは上り専用とし、現在の下り線側には柵を設置する。さらに、横須賀線ホームの新橋・東京方に新改札口を設置する予定。

工事は、ホーム上屋の一部を昼間施工にするなど、工法や作業時間帯を見直した結果、当初予定の23年度を繰り上げ、22年度末ごろの使用開始を目指している。

横浜側から見た新下りホーム（右下）のイメージ

東京都新宿区に収益用不動産取得

JR西日本不動産開発

JR西日本不動産開発は、芙蓉総合リース（東京都千代田区）と共同で、東京都新宿区に収益用不動産「カルパティア市ケ谷」を取得した。首都圏での収益用不動産取得は8件目。

建物は鉄筋コンクリート造り地上6階・地下1階建て。敷地面積約185０平方㍍、建物面積約4429平方㍍。1989年4月竣工。用途は共同住宅（41戸）。

豊肥線復旧に補助金

長期的な運行確保へ

JR九州

JR九州は、「平成28年熊本地震」で被災した豊肥線肥後大津―阿蘇間（27・3㌔）の復旧について、3月16日付で国土交通大臣から鉄道軌道整備法に基づく災害復旧補助金の交付決定通知を受領した。同社では補助制度を活用して復旧工事完遂と運転再開に取り組むほか、同社と関係自治体で長期的な運行確保（10年間）に向けた取り組みを行っていく。

同区間は2016年4月の地震とその後の大雨で約50カ所が被災。同社では17年4月から、国、熊本県などと連携して復旧工事を進めており、20年度内の運転再開を目指している。復旧事業費は総額約50億円（同補助対象外費用を含む）。補助対象額の補助率は、国と地方公共団体（同県）が各4分の1、鉄道事業者が2分の1。

同社では補助の申請に当たり、要件となる「長期的な運行の確保（10年間）に関する計画」を、熊本県、関係市町村（阿蘇市、大津町、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村）と共同で作成・添付した。

計画は、被災前に比べて同線の収支改善が図られることを目指すもの。同社は観光誘客キャンペーン、ウオーキングイベント、D&S（観光）列車による誘客促進、安全な輸送サービス確保、メンテナンスコスト削減など。自治体では広報誌による利用呼び掛け、南阿蘇鉄道との接続強化、同県が実現に向けて調査している熊本空港アクセス鉄道による利用促進などに取り組む。

今後、同社は関係自治体と共に同線の実態を正確に把握して活用策に取り組み、収支改善を図っていく。

バス事業部など新設

西日本JRバスが組織改正

西日本ジェイアールバスは6日付で、バス事業部や営業統括部、開発事業部、情報システム室を新設するなどの組織改正を実施した。一層の安全性向上と大阪・関西万博、IR（統合型リゾート）誘致に向けた体制の整備、今後の経営環境の変化への柔軟な対応が狙い。

バス事業部はバス運行全般を主管。さらに安全推進課を部に格上げし、同事業部内に安全推進部を設ける。同事業部には運行管理部（旧運行管理課）、車両部（旧車両保全課）、マーケティングに基づきバス路線計画を策定する計画部（旧営業部営業計画課）も置く。

営業統括部はバス事業の営業全般を担当。バス事業部と並列の位置付けとし、より主体的かつ柔軟に営業施策を展開する。部内に販売促進部（旧サービス販売促進課）、国際誘客部（旧国際誘客促進課）、バス旅創造部（旧バス旅創造課）を配し、販売促進部に受託業務課を設ける。需要動向に応じて料金を変動させるイールドマネジメント業務は、旧イールドマネジメント課から販売促進部に移管。開発事業部は主に海外を含めた新規事業など、情報システム室はIT関連や情報セキュリティー構築などを担う。このほか、大阪・関西万博対策室を新設する。

「JR東日本テクノサービス」に

JRテクノサービス仙台社名変更

JR東日本グループのジェイアールテクノサービス仙台は1日付で、社名を「JR東日本テクノサービス」に変更した。

同社は、車両や駅の清掃業務、車両メンテナンス業務、ビルメンテナンス業務などを手掛けている。社名変更は、同日の会社設立20周年の節目に合わせ、「信頼されるサービス創出企業」としてJR東日本グループの発展へ貢献することを示すのが狙い。住所、電話番号などは変更ない。

「交通図書賞」第3部受賞を伝達

交通協力会主催、交通新聞社共催の令和元年度の第45回「交通図書賞」（日本交通協会協賛、交通経済研究所後援）の第3部（歴史）に選ばれた小堀聡著「京急沿線の近現代史」（クロスカルチャー出版）に対する賞状と記念品などの伝達が3日、東京都内の同社で行われた＝写真。

この日は、交通協力会の顧問が出席（小堀氏は欠席）。主催者側からの図書賞の趣旨、審査経過などの説明後、横山社長から賞状と記念のトロフィーが授与された。

滋賀県と産業振興など連携

近鉄百貨店

近鉄百貨店と滋賀県は、産業振興に関する協定を締結した。今後、それぞれが持つネットワークやノウハウなどを有効活用して県産品の販売促進や観光振興などに連携して取り組み、地域活性化を目指す。

近鉄百貨店は滋賀県内で草津店を運営。同社は特に郊外店において「地域共創型百貨店」を目指しており、今回の協定締結を機に地元と共に新しい価値を創出し、滋賀の魅力PRに全力を注ぐとしている。

具体的には、食品を中心に滋賀の魅力的な商品を集めた草津店1階物販コーナー「近江路」での特産品の販売促進や情報発信イベント、ワークショップなどを随時展開していく。

同店は今年2月に全館リニューアルを完了。2階には地元産品や加工食品、工芸品などを豊富にそろえた東急ハンズとのコラボショップ「Plugs Market（プラグスマーケット）」がオープンした。

人事

西日本ジェイアールバス人事

[illegible]

（以上1日付）

[illegible]

（以上3月31日付）

JR東日本八王子支社

（6日付）

[illegible]

JR東日本秋田支社

（6日付）

[illegible]

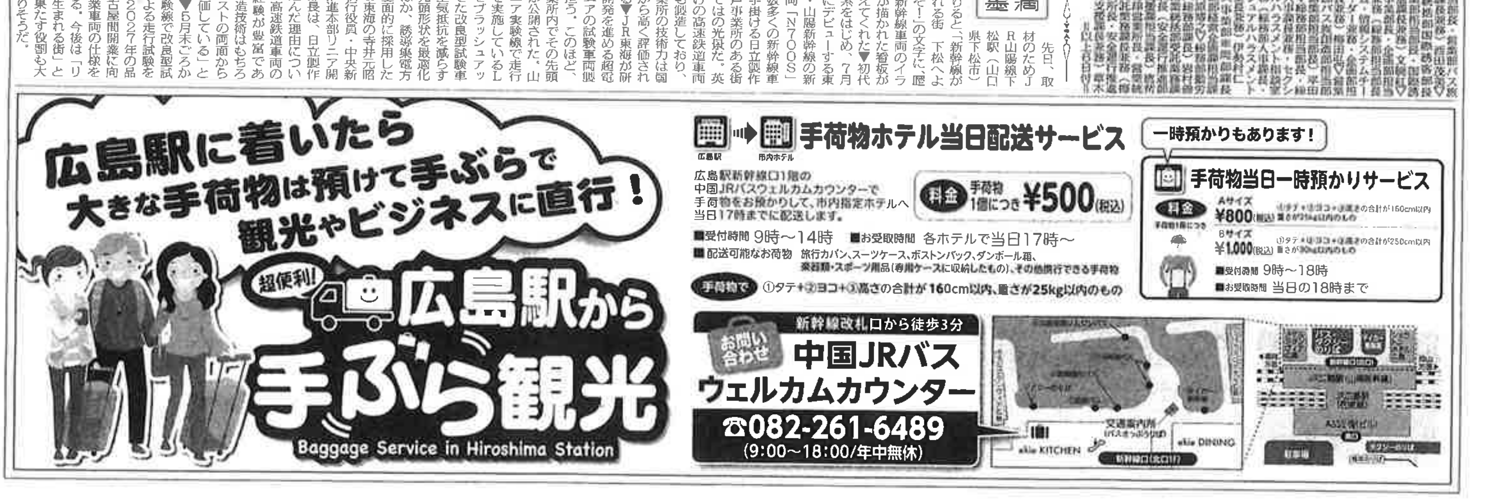
JR貨物

（6日付）

[illegible]

墨滴

先日、取材のためJR山陽線下松駅（山口県下松市）を降りると、「新幹線が生まれる街　下松へようこそ！」の文字に、歴代の新幹線車両のイラストが描かれた看板が出迎えてくれた▼初代の0系をはじめ、7月1日にデビューする東海道・山陽新幹線の新型車両「N700S」まで数多くの新幹線車両を手掛ける日立製作所笠戸事業所のある街ならではの光景だ。英国向けの高速鉄道車両なども製造しており、同事業所の技術力は国内外から高く評価されている▼JR東海が研究、開発を進める超電導リニアの試験車両製造も担う。このほど、同事業所内でその先頭車両が公開された。山梨リニア実験線で走行試験を実施しているL0系をブラッシュアップさせた改良型試験車で、空気抵抗を減らすため先頭形状を最適化したほか、誘導集電方式を全面的に採用した▼JR東海の寺井元昭常務執行役員・中央新幹線推進本部リニア開発本部長は、日立製作所を選んだ理由について、「高速鉄道車両の製造経験が豊富であり、製造技術はもちろん、コストの両面から高く評価している」と明かす▼5月末ごろから同実験線で改良型試験車による走行試験を行い、2027年の品川―名古屋間開業に向け、営業車両の仕様を策定する。今後は「リニアが生まれる街」として、果たす役割も大きくなりそうだ。


広島駅に着いたら
大きな手荷物は預けて手ぶらで
観光やビジネスに直行！
超便利！
広島駅から
手ぶら観光
Baggage Service in Hiroshima Station

手荷物ホテル当日配送サービス
広島駅　市内ホテル
広島駅新幹線口1階の中国JRバスウェルカムカウンターで手荷物をお預かりして、市内指定ホテルへ当日17時までに配送します。
料金 手荷物1個につき ¥500（税込）
■受付時間 9時～14時　■お受取時間 各ホテルで当日17時～
■配送可能なお荷物 旅行カバン、スーツケース、ボストンバック、ダンボール箱、楽器類・スポーツ用品（専用ケースに収納したもの）、その他携行できる手荷物
手荷物で ①タテ+②ヨコ+③高さの合計が160cm以内、重さが25kg以内のもの

一時預かりもあります！
手荷物当日一時預かりサービス
料金 手荷物1個につき
Aサイズ ¥800（税込） ①タテ+②ヨコ+③高さの合計が160cm以内 重さが25kg以内のもの
Bサイズ ¥1,000（税込） ①タテ+②ヨコ+③高さの合計が250cm以内 重さが30kg以内のもの
■受付時間 9時～18時
■お受取時間 当日の18時まで

新幹線改札口から徒歩3分
お問い合わせ
中国JRバス
ウェルカムカウンター
☎082-261-6489
（9:00～18:00/年中無休）